

2023 年度
京都精華大学大学院
デザイン研究科 修士課程(実技系)

入学試験問題

小論文（日本語解答）

- *試験時間 10:30 ~ 12:00
- *試験開始後 30 分以内は退出できません。
- *辞書および電子辞書の持ち込みは不可。
- *問題用紙は試験終了後に回収します。
- *解答は解答用紙に記入すること
- *試験時に使用できる物は、黒鉛筆またはシャープペンシル、
消しゴム、鉛筆削り（小型のもの）
それ以外の使用は認めません。

座席番号	
------	--

問 題

以下の記事を読み、その内容を簡潔に述べなさい。また、ここでテーマに据えているデザインの問題は何か、あなたの考えを論述してください。(字数制限なし)

一方で、わたしたちは人工知能を基軸とした新たな世界に向かう始めている。ビッグデータの解析やプラットフォームビジネスなど、新たな産業の様相を語る言葉は多いが、端的にいうなら、リアルと僕らが思っていた世界に対して「メタ」という新たな世界が、徐々にその姿をあらわし、ヒトが生きていく世界の様相が変わろうとしている。身体や五感を通して感知でき、僕らが現実の世界だと考えてきたものが、テクノロジーが生み出す次なる世界と融合することでその質が変わろうとしている。考えてみれば、リアルと思われていた世界も、感覚器官を通して発せられる電気信号が神経系を通して脳に送られ、結果として脳が生み出した幻想であるとも考えられるわけで、おそらく人類はメタの世界を受け入れていくことになるだろう。この新たな産業世界に身を投じている人々は、日々、瞑想を励行し、二つの世界を統合する精神や感覚を安定させるのに余念がないと聞くが、本来的には不可分なものかもしれない。

米国と中国という大国の対立も、資本主義と共産主義あるいは自由と独裁の対立というよりも、個の自由な活動を果てしなく許容するメタバース的霸権主義と、中央集権を維持したまま市場原理を躍動させようとする国家霸権主義との、新たな対立へと向かうそうな気配である。果たして人類はこの問題を解決できるほど賢いかどうか。

日本の産業の未来は、環境・エネルギー問題、テクノロジーの趨勢、そして大国間の霸権争いの間で揉まれていくことになりそうであるが、ここは超然と、自然を畏怖する心を基軸としたナチュラリストの境地を目指してはどうかと思うのである。メタもまた、自然と連続した豊饒として認識し、古代の人々が鋭い直感でかけがえのないものとして崇めた自然をこそ、今一度自分たちの財産あるいは資源として捉え直すことが有効ではないだろうか。世界はイノベーションのみで動くわけではない。オーセンティシティすなわち過去から守られ続け、未来においても輝きを失わない価値もまた、世界を動かす要因である。たとえば地球そのもののように。

日本は今一度、その風土と千数百年ひとつの国であり続けた文化の蓄積に冷静向き合えばいい。霸権のせめぎ合いを揺れる世界の人々が、心穏やかに生に向き合えるような、純粋な自然の贈与を満喫できる場所になればいい。そのような価値を提供するサービスを何と称していいのかわからないが、そういう方向に向かうべく「低空飛行」を続けている。本書は、同名のウェブサイトに掲載していたブログに加筆したものであるが、書籍にまとめる再編作業の中で、日本を探訪し始めた衝動の根拠やその向かう先が、おぼろげに見えてきたように思う。そしてそれは、自分がデザインと称してきた営みを総合するものになるのだろうと予感している。

出典『低空飛行』この国のかたちへ
岩波書店 2022年 原研哉